

○令和4年度 国立大雪青少年交流の家教育事業

「夏休みチャレンジキャンプ」

(R4.8.1～8.4 3泊4日)



◆目的

生活習慣が乱れがちな長期休業中に、規則正しい生活の大切さを体感するとともに、生きる力を身につけ、実践していこうとする気持ちを養う機会とする。

◆参加実績 27名

【定員30名 小学校3～6年生対象】

美瑛町 9名

東神楽町 10名

上富良野町 8名

【内訳】

小学校3年生 7名

小学校4年生 9名

小学校5年生 6名

小学校6年生 5名



◆プログラム

①「食育体験【食べるって大事!】(120分)

【講師: Happy Clover 園田 奈緒氏】

食べることの大切さや、栄養バランスの取れた食事について、体験を通して理解を深めるとともに、これからの食事作りの活動に対してよい動機付けとなった。

②「農作業体験【畑仕事・夏野菜の収穫】(120分)

【講師: 株式会社本山農場 本山 忠寛氏】

ビニルハウス内で栽培しているトマトの脇芽取りなどの農作業体験を行い、食べ物を育てる楽しさや苦労について考える機会となった。



③「自然体験【水遊び】(90分)

美瑛町内にある小川で、水遊びをしたり生き物探しをしたりするなどの自然体験活動を行った。

④「表現運動【リズム体操・チアリーディング】」(120分)

【講師：北海道剣淵高等学校教諭 柏倉 早智子 氏】

チアリーディング体験を通して、参加者は体を動かすことで解放的になれたとともに、グループでのダンスの創作等を行うことで協力の大切さを学び、仲間づくりにつながった。



⑤「表現運動【演劇ワークショップ】」(210分)

【講師：富良野 GROUP 松本 りき 氏】

演劇の手法を用いたコミュニケーショントレーニングを実施した後、表現のテーマを設定してグループごとにゲーム形式の演技をした。役割と演技の仕方について話し合いをしながら進め、グループとしての結びつきを強める機会となった。

夜には、キャンプファイヤーをしながら、各グループで考えた演技を発表し合った。



⑥「創作クッキング・ランチパーティー」(270分)

これまでの食事作りで学んだことを用いながら、グループごとにメニューを考え、調理を行った。作った食事は、ビュッフェ形式で並べて誰もが食べられるようにし、他のグループとの交流の機会にした。最後に、事業で作ったメニューの写真と作り方をしおりに貼り、家でも自分でもう一度調理にチャレンジできるようにした。



◆事業運営・企画のポイント

○事業の趣旨や進め方、広報の仕方について、各自治体の教育委員会と協議しながら進めることにより、協力関係を構築することができた。

○「食」を中心テーマとし、食べることの大切さや生活リズムを整えることの大切さを学ぶ機会とした。「食育」を学ぶ講師を招いたり、調理士の資格をもつ職員を活用したりしながら、手軽で栄養バランスの取れたメニュー作りを行い、家庭でも自主的に食事作りを継続できるように工夫した。

○「食育」だけでなく、自然体験や農作業体験、チアリーディング体験など、様々な活動を取り入れることで、参加者が事業を通じて開放的になるようにし、最後に自分の考えや思いを表現できるようにするようプログラム構成を工夫した。

◆参加者の声

□自分で料理を作ると、苦手なものも食べられた。料理って楽しい。(多数)

□みんなと友達になれて、いろんな学習が楽しく学べて、来てよかった、いろいろ料理つくりとかできて、新しい友達、仲間ができてとってもうれしかった。

□交流活動は苦手なので少し不安だったけど、料理などの体験をみんなやって、人との関係の大切さを知ることができた。

◆事業の成果

①募集人数30名に対して、90名の応募があるなど、事業の内容に対する関心度が高かった。

②「食」を中心テーマに据え、栄養バランスの学習や食事作り、農作業体験などをプログラムに取り入れることで、事業を通して伝えたいねらいが明確になった。

③養護学校の教員が1名ボランティアとして参加し、フリーで子どもたちの体調面や精神面のケアを行いフォローできたことで、子どもたちの安心にもつながり、大きなトラブルや体調不良等もなく過ごすことができた。